

京都

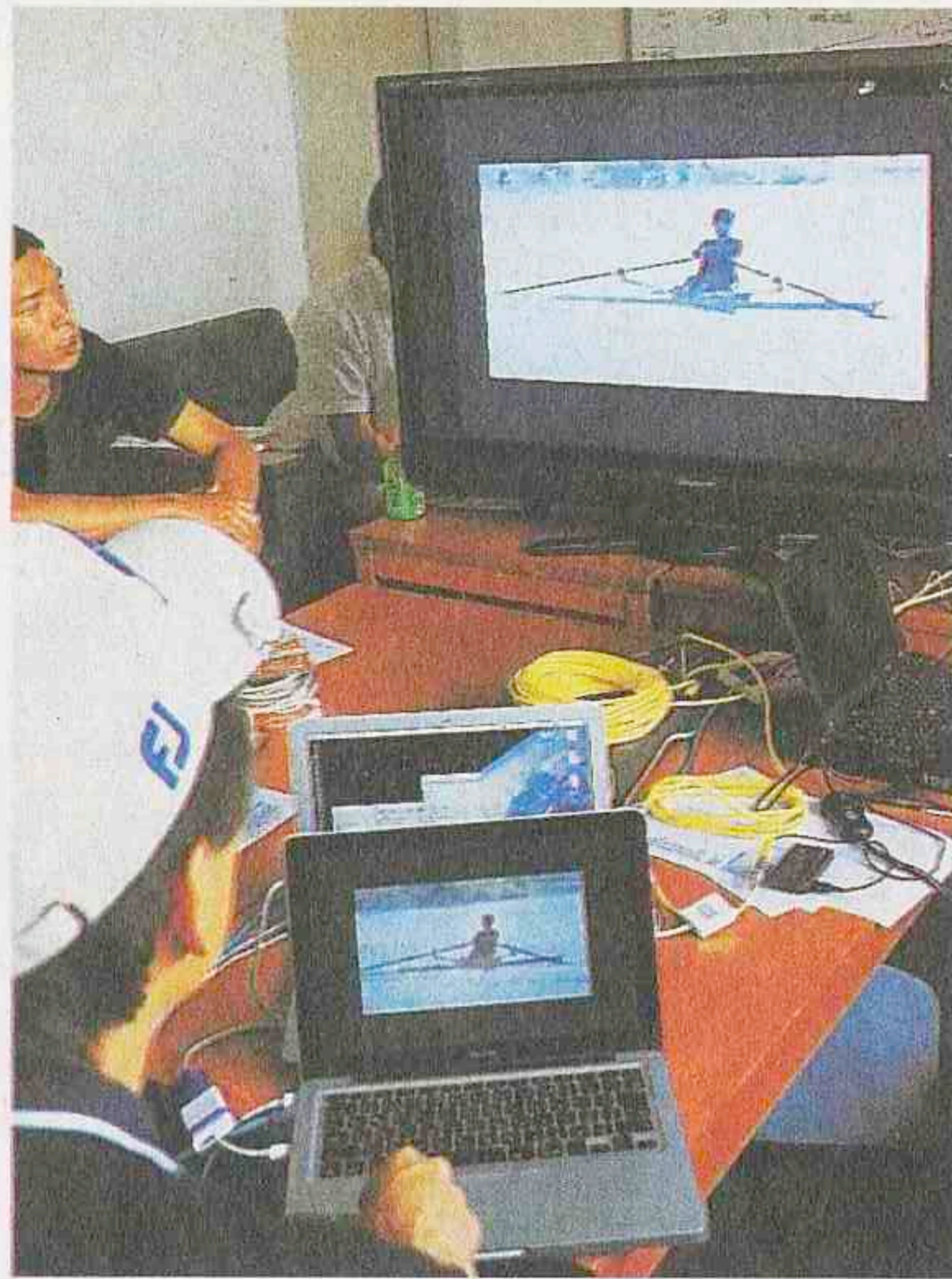
KYOTO

葬祭センター

公益社

本社/烏丸三条 ☎221-4000

www.koekisha-kyoto.com



レース完全中継の実験を重ねるプロジェクトのメンバー＝大津市蛸谷

戦力総大京大継中トボ

スタートからゴールまで、3キロ余のボートレースの一部始終をビデオカメラで追いかけて、ライブ画像を観覧席の液晶ディスプレイに送る中継システムを、京大ボート部とそのOBたちが作り上げた。20日、大津市の瀬田川である現役とOBを交えた対抗戦「京大・東大対校競漕大会」で初の実況中継に挑む。

(浅野有美)

現役・OBシステム開発

対抗戦は最長3200メートルのコースで、9人乗りの男子エイトや5人乗りの女子クオドルプルなど11種目。今年で61回目、両校の総長も駆けつける伝統の対抗戦だ。京大応援団は瀬田川沿いのボート部の艇庫屋上に設けた観覧席に陣取る。艇が勢いよく飛び出すスタート、途中の競り合い、ゴール……。見どころはたくさんあるのに、観覧席から見られるのは目の前を通るわずか10秒ほど。

「レース展開がわからない」「選手の表情が見たい」。そんなOBの声を聞き、京大教授の前川覚・ボート部長(61)が中継を思い立った。OBらに協力を呼びかけ、昨年11月、「京大ボート部WiMAX中継プロジェクト」が始まった。当日は橋げたに5カ所、伴走船に1カ所ハンディカメラを取り付け、映像をパソコンを使い

戦初対抗東大のあす

インターネット経由で中継する。通信は、OBが勤めていたKDDI系「UQコミュニケーションズ」が技術協力した。無線LANを発達させた次世代高速通信技術を使用。屋外を移動中でも高速、大量のデータを送信することができる。

オフィス家具メーカー「イトーキ」元会長で、OB会「濃青会」の伊藤七郎会長(79)は映像部門の専門社員を送り出した。OBの京都産業大の蚊野浩教授(50)とともに機器の配線や映像処理に腕をふるう。液晶ディスプレイは、前川教授の大学時代の同級生が勤める「シャープ」が46台、3台を無償で貸し出した。

チームを統括するOBの中村陽一さん(61)は「みんな一生懸命やってくれた。自分たちで中継できる新しい時代がきた」と胸を張る。5月から毎週土曜、瀬田川で中継実験を繰り返し、精度を高めてきた。かかった費用は約50万円。「OBの協力がなかったら、200万〜300万円はかかったでしょう」と前川教授。OB以外の人たちにも観戦を呼びかけている。詳細は京大ボート部のホームページ(<http://www.biwa.n.e.jp/~rowing/>)。